

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康、岩井 雄一		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

人間発達心理学の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

### 科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

### 学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる

## 内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

## 評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	教育方法		
担当教員名	狩野 浩二、安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

本科目は、教育職員免許法施行規則で定められた科目の中で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭の普通免許を取得するために、必修と定められた科目である。同施行規則で定められた科目には、「教育方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）」となっているが、コンピュータ等の操作技法については、高等学校まであるいは大学入学後に「情報処理演習」において十分に学習しているため、操作技法については行わない予定である。

本科目では、「方法・技術」を軽視したり、メディアや情報機器を活用することが「方法・技術」であるとしたりするものではなく、教師が身に付けている方法や技術はきわめて重要であると考えている。

「方法・技術」には、子どもの状態を見抜き、事態の先を見通す洞察力なども含んだ「教師力」そのものであると考えている。その意味において、教員を目指すものには必ず理解し、学修してほしい分野である。

#### 内容

いかに取り扱う内容を示す（順不同）。

テキストの順序に沿っている。

- 1 教育の方法と技術（教育の方法・技術とは何か、子どもの学びと教師の方法・技術など）
- 2 授業が目指すものは何か（授業の方法・技術と子ども、子どもの固有性と方法・技術の創造性）
- 3 授業の構想と計画（構想と計画の基本的視点、指導案はどう書くか、指導案を支える教材研究）
- 4 指導案作成（実習課題）
- 5 教えることと支援すること（本気で教えること、学習支援と称して放置すること）
- 6 問いの創造と授業の展開（問いの発見から課題の成立へ、授業の構成と学習形態）
- 7 教材づくり・教材発掘の視点（教材づくり・教材発掘の視点、教材研究）
- 8 授業と教授メディア（教授メディアの変遷、授業はどのように変わるか）
- 9 コンピュータの利用（コンピュータと現代社会、コンピュータの教育利用の領域と教師の役割）
- 10 学習障害（LD）の理解と指導（学習障害の概念、LDの要因と理解、指導法）
- 11 特別支援教育と方法・技術（特別支援教育、Normalization, ADHD）
- 12 授業と教師（教師の力量、表現としての教師の身体、教師のことば）
- 13 教育評価の役割と方法
- 14 学力と教育評価の課題（予期しない学習の結果、教育的働きかけと評価、学力）
- 15 まとめ

#### 評価

評価は、 授業態度（授業への参加度や、授業中の課題への取り組み状況）を10%、 課題の提出状況と達成度を40%、 最終試験の達成度を50%とし、総合的に行う。全体の60%以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う場合があるので注意すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松平信久・横須賀薫編『新訂教育の方法・技術』教育出版

【参考図書】横須賀薫編『授業研究用語辞典』教育出版，その他教室で紹介する。

科目名	国語科教育法		
担当教員名	藤原 マリ子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

教員の免許取得のための選択科目。本科目では、中学校国語科の授業を行う際の基礎的な知識・技能の習得を目指す。後期の「国語科教育法」はその発展科目で、連携して一層の国語科教育の知識・実践能力の向上を図る。

#### 科目の概要

学習指導要領や指導理論について学んだ後、具体的な中学校国語科教材に即して、先行の優れた実践例を参考にしつつ指導案の作成や模擬授業を行う。実際に授業を担当する際の実践的な諸技法の基礎を身につける。

#### 学修目標

1. 中学校国語科教育の目標や内容、各分野の指導理論の概要を理解する。
2. 過去の優れた実践や理論を参考にし、学習指導案を作成する力を身につける。
3. 模擬授業等を通して、授業実践の基礎的技法を習得する。

#### 内容

1	学習指導要領の解説（1）国語科教育の内容と目標
2	学習指導要領の解説（2）改訂の経緯・特徴
3	学習指導案の書き方と模擬授業の方法について
4	「話すこと・聞くこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
5	「話すこと・聞くこと」の指導法（2）指導案の作成
6	「話すこと・聞くこと」の指導法（3）模擬授業
7	「書くこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
8	「書くこと」の指導法（2）指導案の作成
9	「読むこと」の指導法（1）指導理論の流れと実践例
10	「読むこと」の指導法（2）PISA型読解力の定義と実践例
11	「読むこと」の指導法（3）説明的文章・指導案作成
12	「読むこと」の指導法（4）文学的文章・指導案作成
13	「読むこと」の指導法（5）模擬授業
14	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関する指導法
15	まとめ

## 評価

毎回、授業時に提出するレポート類(4割)、演習発表(1割)、期末考査(5割)により評価を行い、60点以上を合格とする。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：毎回、プリントを配布する。

参考図書：『中学校学習指導要領解説 国語』(文部科学省・東洋館出版)。その他、適宜、授業中に紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この講座では、学習指導要領に基づき、中学英語二種免許状の取得に必要な知識の獲得はもちろんのこと、教壇実習で必要な教授法について、実践的な指導技術を学ぶことをねらいとします。

#### 内容

まず、テキストやモデル授業のビデオを使って1時間の授業の組み立て方を学んだあと、Warm-upに続いてListening、Speaking、Reading、Writingなど具体的な指導法を研究し実践します。学生は教師と生徒の役をそれぞれ持ちまわりで分担し、該当する箇所の指導案を作成します。

第 1 週 授業説明

第 2 週 中学校の英語授業

第 3 週 授業の構成

第 4 週 Listeningの指導（その1）

第 5 週 Listeningの指導（その2）

第 6 週 Listeningの指導（その3）

第 7 週 Speakingの指導（その1）

第 8 週 Speakingの指導（その2）

第 9 週 Speakingの指導（その3）

第 10週 Readingの指導（その1）

第 11週 Readingの指導（その2）

第 12週 Readingの指導（その3）

第 13週 Writingの指導（その1）

第 14週 Writingの指導（その2）

第 15週 まとめ

#### 評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	道徳教育		
担当教員名	上原 行義		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

## ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 科目の性格

本科目は、教育職員免許法施行規則に定める、中学校・高等学校の免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育課程及び指導法に関する科目」に対応するものである。

中学校一種の免許状を取得しようとする者は、必修であるので留意すること。

### 科目の概要

道徳教育に対する一般的認識は、歴史的な影響もあって学習指導要領に定められた本質や理念とは、大きなずれがある。道徳教育が目指す人間観や教育観について正しく理解して指導に当たることが出来るように、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考察する。また、学生相互の意見交換を大切に、常に自ら判断し行動できる人間を目指して向上しようとする態度を身につける。

### 学修目標

- ・道徳教育とは何か、その意義や課題について考察し、道徳教育の本質や理念について正しく理解する。
- ・学校における道徳教育と道徳の時間の果たす役割について理解し、「道徳」の授業のあり方について考察する。
- ・「道徳」の授業の進め方について理解し、学習指導案を作成する。

## 内容

1	1	学習指導要領における道徳教育の位置づけ
2	2	社会規範としての道徳 道徳教育に関する一般的認識のずれ
3	3	現代社会における道徳教育の課題 青少年の問題状況・現代社会の道徳的問題
4	4	道徳の本質と道徳教育の意義 人間の存在構造と道徳教育・道徳の本質・理論的基礎
5	5	学校における道徳教育の基本構造 学校の社会的任務・道徳教育の目標と内容
6	6	学校の全教育活動における総合的展開
7	7	学校における道徳教育の運営と指導 道徳教育の指導計画・道徳の時間の指導
8	8	道徳の時間の指導案と指導の諸方法 学習指導案の作成
9	9	学校における道徳教育の基礎 道徳における行為決定のしくみ・学校における道徳教育
10	10	学校における道徳の授業 どんな資料で何をねらうか
11	11	これからの時代に要求される道徳教育 道徳教育をめぐる動向・道徳教育の新しい発想
12	12	学習指導案の検討と模擬授業の準備
13	13	模擬授業の実践(1)学生の選んだ主題
14	14	模擬授業の実践(2)学生の選んだ主題
15	15	模擬授業の評価とまとめ

## 評価

レポート課題60%及び平常の授業態度、提出物等40%により評価を行い、60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 遠藤昭彦、山口満編 『道徳教育と特別活動』教職教育講座 第4巻 協同出版

文部科学省 『中学校(高等学校)学習指導要領』 政府刊行物

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 政府刊行物

【推薦書】 押谷由夫、宮川八岐編 『道徳・特別活動重要用語300の基礎知識』 明治図書 375.35/D

科目名	国語科教育法		
担当教員名	藤原 マリ子、星野 祐子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

#### 科目の性格

教員の免許状取得のための選択科目。「国語科教育法」の学習を受け、国語科教育に関する一層の理解を深め、授業実践能力の向上を図る。

#### 科目の概要

国語科教育が抱える今日的課題や学習指導法の新しい動きについて学んだ後、自己の創意工夫を活かした指導法の作成や模擬授業の実践を行い、実際に授業を担当する能力を培う。

#### 学修目標

1. 「国語科教育法」で学んだ基礎的知識・技能を基に、国語科教育の今日的課題や新しい学習指導法について理解を深める。
2. 学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業実践能力の一層の向上を図る。

#### 内容

1	国語科教育の今日的課題と新しい学習指導法
2	ディベートとパブリック・コミュニケーション・ゲーム
3	対話能力を高める授業の工夫
4	PISA型読解力とクリティカル・リーディング
5	論理的な思考力・表現力を育てる授業実践
6	文学的文章における分析批評と読者論的読みの指導方法
7	指導案の作成（1）復習
8	指導案の作成（2）発問・評価について
9	模擬授業（主に「話すこと・聞くこと」）
10	模擬授業（主に「書くこと」）
11	模擬授業（主に「読むこと」説明的文章）
12	模擬授業（主に「読むこと」文学的文章）
13	模擬授業（主に「伝統的な言語文化に関する事項」）
14	模擬授業（主に「国語の特質に関する事項」）
15	まとめ

#### 評価

毎回、授業時に提出するレポート類（3割）、演習発表（3割）、期末考査（4割）により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：毎回、プリントを配布する。

参考図書：『中学校学習指導要領解説（国語）』（文部科学省・東洋館出版社）。その他、授業の中で適宜紹介する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	福田 仁		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

この講座では、「英語科教育法I」で学んだ基礎知識に加え、1時間の授業全体を通して肉付けをしながらより良い授業展開ができるようになることをねらいとします。

#### 内容

「英語科教育法I」に引き続き模擬授業をすすめながら、日本英語教育史、教科書分析、指導案作成の指導を行います。日本英語教育史では、日本の英語教育の歴史を概観して、さまざまな教授法に触れることにより、現在中学校で行われている英語教授法を具体的な方法論の形で把握します。また、随時英語実力テストを行ったり、基礎英文法の復習などを通して、学生の英語力の向上を図ります。

第 1 週 総合活動（その1）

第 2 週 総合活動（その2）

第 3 週 総合活動（その3）

第 4 週 早期英語教育（その1）

第 5 週 早期英語教育（その2）

第 6 週 評価（その1）

第 7 週 評価（その2）

第 8 週 言語とその指導（その1）

第 9 週 言語とその指導（その2）

第 10週 英語教授法と英語教師（その1）

第 11週 英語教授法と英語教師（その2）

第 12週 教授メディア（その1）

第 13週 教授メディア（その2）

第 14週 教授メディア（その3）

第 15週 まとめ

#### 評価

課題50点、模擬授業50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

米山朝二『英語教育・・・実践から理論へ』松柏社

科目名	教職入門		
担当教員名	高橋 京子、草野 一紀、藤原 マリ子		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

##### 科目の性格

教育職員免許法に定められた教職科目である「教職の意義等に関する科目」である。

##### 科目の概要

「教師の仕事とは何か」を様々な角度から学ぶ。

- ・教職の意義と教員の役割について
- ・教員の日常の教職生活について
- ・教員の職務内容について
- ・教員採用など進路選択のあり方

##### 学修目標

教職の制度的側面についての基礎知識を習得するとともに、教職の意義と教員の役割について理解を深め、教職への意欲を高める。

#### 内容

第1回：専門職としての教師・その法的位置づけ

第2回：基本的な教育法規の解説と考察

第3回：学習指導要領の法的意義

第4回：学校における教育課程編成の意義

第5回：教員生活の実際

第6回：研修制度の実際

第7回：教員の服務

第8回：学校・家庭・地域社会の連携

第9回：学校をめぐる、現代の諸問題

第10回：今日の教育課題の考察（子どもの学力）

第11回：今日の教育課題の考察（子どもの健康）

第12回：今日の教育課題の考察（子どもの安全）

第13回：今日の教育課題の考察（子どもの人権）

第14回：教員の養成と採用

第15回：まとめ

#### 評価

毎回の講義で記入する学習票(20点)と、最終試験(80点)を総合して、単位を認定する。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「最新 教育キーワード 第13版」江川? 成ほか著 時事通信社

【参考図書】「学習指導要領」「学習指導要領解説」「学校小六法」等、随時紹介します。

科目名	教育学概論		
担当教員名	橋本 克己		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

### 1 科目の性格

本科目は、教育職員免許法に定める、中学校2種免許取得に必要な「教職に関する科目」のうち、「教育の基礎理論に関する科目」（4単位中の2単位）に対応するものである。（教職必修科目）

### 2 科目の概要

本科目の概要は、(1) 教育の理念ならびに教育に関する歴史・思想について学ぶ、(2) 教育に関する制度、社会との関わり、学校経営の基本について学ぶことにある。

### 3 学修評価

本科目の学修目標は、以下の2点である。 教育の歴史的な展開と教育に関する様々な知識を理解し習得する。 教育について多角的視点から根源的に考えることができるようになる。

## 内容

- 第1回： 教育の概念をめぐって
- 第2回： 社会生活と教育
- 第3回： 古代・中世の教育と近代学校の成立
- 第4回： 「子ども」を中心にとらえる教育観の成立
- 第5回： 20世紀の代表的教育思想
- 第6回： 日本の学校制度と教育体系の整備
- 第7回： 教育の社会的基盤
- 第8回： 現代日本の教育課題
- 第9回： 子どもと社会環境・特別支援教育
- 第10回： 「学ぶ力・考える力」 能動的な学習者を育てる
- 第11回： 教育評価の意義と方法
- 第12回： 学校経営と学校評価
- 第13回： 学級経営の基本
- 第14回： 教育行財政の基本 生涯学習時代の「教育と学習」
- 第15回： まとめ

## 評価

毎回授業時の小テストと筆記試験により評価する。その比率は、小テスト50%：筆記試験50%で、合計60%以上の得点の場合を単位認定する。及第点に満たなかった場合には「再試験」を行う。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】桑原敏明・佐藤三郎 編著『学校教育の基盤 - 教育の本質と社会の中の学校』協同出版

その他は、初回授業時に指示する。

科目名	学校制度論		
担当教員名	黒瀬 任通		
ナンバリング			
学 科	短期大学部-教職・司書教諭課程		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭二種免許状（国語） / 中学校教諭二種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

#### 科目の性格

- ・ 学校教育を成り立たせている仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の教育及び学校における諸問題を考察する視点を得ることである。

#### 科目の概要

- ・ 本授業では、実際の社会の中で、学校教育が果たしている役割に目を向け、教育の条件整備を行う教育行政の役割と機能、教育行政と各学校との関わり、各学校における学校経営などについて扱うなかで、わが国の学校教育についての理解を深めるとともに、近年の教育改革の動向について考察する。

#### 学修目標

- ・ 教育の基礎理論に関する科目として、学校教育に関する社会的な関係に関する知識、教育制度に関する知識、学校や学年・学級経営に関する知識を身に付ける。
- ・ 学校教育制度の観点から、学校教育を成り立たせている仕組みや社会的背景について認識を深め、現代の教育及び学校における諸問題を考察する視点を得させる。

## 内容

1	第1回	社会における学校教育の役割
2	第2回	少子高齢化社会における家族の教育と学校教育
3	第3回	学校教育における教師と生徒との関係
4	第4回	生涯学習論と学校教育との関係
5	第5回	教育委員会制度と各学校の役割
6	第6回	学校経営と学年・学級経営
7	第7回	教員の研修
8	第8回	教育課程の管理と基準
9	第9回	生徒の指導要録・調査書の意味
10	第10回	教科用図書の採択と副教材、教材（題材）の役割
11	第11回	教科担任と学級担任
12	第12回	校務分掌の意味と役割
13	第13回	地域・家族・学校の関わり・協働
14	第14回	学校長と学校経営、学校内外の連携とこれからの学校教育
15	第15回	まとめ

## 評価

授業への取り組み（小まとめ・小テスト等）60点、課題レポートなどの提出物40点、などにより総合的に評価する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

『必携 学校小六法』 監修 杉原 誠四郎 共同出版